

# 読後ディスカッションで何が語られているのか：

## 書記記録分析の試み

草薙 優加 深谷 素子 小林 めぐみ

### 研究の背景と目的

長期的な継続により英語力向上に寄与すると言われる英語多読だが（西澤 et al., 2011）、大学生の1日の読書時間0分が5割を超える現在（全国大学生協連合会, 2018）、母語での読書体験に乏しい学習者にとって自律的、主体的に読書を継続することが難しく、効果を得る前に頓挫してしまうケースが多く観察されている。そこで筆者らは、通常「個」の活動である読書に加え、「協同」の学びの場であるクラス・コミュニティを活用し、読書前、読書中、読書後の各過程に多彩な読書アクティビティを導入することで、学習者の読書に対する動機づけや読書の質量両面の向上、さらには読書を通じてのコミュニケーション能力向上を目指す取り組みを行ってきた。本稿では、その教育活動の中でも学習者の評価が高く、多様な教育効果が確認されているワールドカフェに着目する（Brown, Isaacs & the World Café Community, 2005; 深谷, 草薙, 小林, 2015; Kobayashi, Fukaya & Kusanagi, 2018; 草薙, 深谷, 2015）。

ワールドカフェは、カフェのような寛いだ雰囲気に参加者が自由に議論するグループ・ディスカッションの一種であるが、その最大の特徴は、放っておけば空中に消えてしまう議論の内容を模造紙に記録し可視化する点であろう。ワールドカフェでは、3、4人の小グループを複数つくり、参加者は15～20分ごとに自由にグループを移動し議論を深めていくのだが、その際、卓上には模造紙と色マーカーが用意され、参加者は文字、記号、絵などを用いて自分ならびに他者の発言を記録する。ミツバチが他花受粉するように、参加者がグループを移動するたびに模造紙上に蓄積されたアイディアと出会い、そこに各自のアイディアを書き加えることで「集合知」が形成される仕組みである。

筆者らによるこれまでの先行研究では、教師による観察と事後アンケートにおける参加者の評価に基づきワールドカフェの効果を測ってきたが、実際の議論内容にまでは踏み込めていなかった。そこで本稿では、ワールドカフェの要とも言うべき書記記録（模造紙上の記録）の分析を試みる。ワールドカフェを読後アクティビティとして実施した二つの事例について、以下のリサーチクエスチョンを設定し分析した。

1. 模造紙に記録された内容から、ワールドカフェでどのようなディスカッションが行われたのかを、大学生グループ (novice) と教員グループ (expert)の二つの事例から明らかにする。
2. 上記二グループ間で議論内容に違いがあるかを調べ、より効果的な指導の手がかりを探る。

### 研究方法

本調査の対象者は、大学生グループ (novice) と教員グループ (expert)である。前者は多読授業を受講した日本人大学2年生61名、英語レベルは中～上級で、授業内アクティビティとして日本語でワールドカフェを行った。後者は多読の研究者・教育関係者ら32名で、その国籍や経歴は多様である。筆者らが実施したワークショップに参加した際、英語でワールドカフェを行った。

ワールドカフェにおいて有益な他花受粉が起こるには、多様な反応や想定外の解釈が生まれる題材選択が有効である。読書活性化を目的とする本調査では、ポストモダニズム絵本作家 Anthony Browne の絵本 *Voices in the Park* を使用した。ポストモダニズム絵本の特徴は、解釈の多様性・不確定性、意表をつく語りの構造、細部の過剰さ、メタファーの多用、間テキスト性などとされるが (Anstey, 2002; 山元, 2011)、*Voices in the Park* では、正にそれらの特徴が絵とテキスト両面で提示され、読者を多様な解釈へと誘う工夫がなされている。本調査では、大学生グループは事前にワークシートを使って予読した後ワールドカフェに臨んだ。教員グループはワークショップ内の音読活動として絵本を読み、その後すぐにワールドカフェを行った。

### 分析の方法

今回の分析に使用したデータは、両グループの参加者が議論しながら発言を記録した A1 サイズの模造紙（以後、ポスターとする）で、両グループから7枚ずつランダムにポスターを選び、その記録内容を書き起こし、あらかじめ設定した基準に準拠して筆者三人でコーディングを行った。基準は、指導ポイントである絵本の重要な特徴に対してどのくらいの気づきがあったかに焦点を当てた。具体的には、1. 解釈や感想、2. 登場人物への言及、3.

社会文化的言及、4. 絵本の主題(4つの Voices)への言及、5. 言語スタイルへの言及、6. フォントへの言及、7. 視覚情報への言及である。

## 結果

主な分析の結果は表 1 のとおりである。まず、両グループのポスター書き込み件数（記号や絵を含む）は大学生グループが 313、教員グループが 222 と、大学生の方が総合的な記入量が多かったが、使用言語の違いもあり書き込み件数のみの比較はできない。そこで、各グループの総書き込み件数のうち、上述の 1~7 の項目に関する書き込みの割合を算出し比較をした。なお、1 件の書き込みが複数の項目に当てはまる場合は、該当する項目それぞれにカウントされている。

結果として、大学生も教員グループも、最も多い書き込み内容は作品に対する解釈や感想だった（それぞれ 64.2%、72.2%）。つまり、読んだ作品に対して自分がどう感じたか、どう思ったかを語ることが話し合いの中心だったことが確認された。登場人物に関する気づきも、それぞれ 44.4%、56.8%と比較的によく言及されたことが見て取れる。解釈・感想の書き込みが多かったことは、ポストモダニズム絵本における解釈の多様性・不確定性が影響した可能性が考えられるが、その詳細な分析については別稿に譲りたい。社会文化的言及、4 つの voices への言及など、作品の背景や主題に関わるコメントは多くない。全体として 1~6 の項目については教員グループのほうがやや気づきが多かったが、最も大きな差が出たのは 7 の視覚情報（絵本のイラストに関わる情報）で、大学生グループが多数コメントしたのに対し（63.3%）、教員グループはその約半分という結果だった（32%）。つまり、大学生グループは教員グループよりも格段に視覚情報に注目していることがわかった。イラストの細部に埋め込まれたメタファー等に対し、大学生がより反応したと考えられる。

表 1: ポスター記載内容の分析結果とその比較（大学生グループ vs 教員グループ）

書き込み件数	大学生グループ		教員グループ	
	%	N=313	%	N=222
1. 解釈・感想	64.2%	201	72.2%	160
2. 登場人物への言及	44.4%	139	56.8%	126
3. 社会文化的言及	6.1%	19	7.7%	17
4. 絵本の主題(4 Voices)への言及	2.2%	7	7.2%	16
5. 言語スタイルへの言及	1.3%	4	3.2%	7
6. フォントへの言及	0.3%	1	3.2%	7
7. 視覚情報への言及	63.3%	168	32.0%	71

## 教育への示唆と課題

以上の結果から、いくつかの教育的示唆を得た。第一に、思考を深める素材としての教材選定の重要性が上げられる。大学生グループ、教員グループともに、書記内容の 6~7 割が解釈・感想だったことは、ポストモダニズム絵本の特徴である解釈の多様性や不確定性が、参加者＝読者の多様な解釈・感想を誘発し、ワールドカフェでの活発な議論につながったとひとまず考えることができる。テキスト選定の成否が、読む行為への興味促進を左右するといえるだろう。同時に、ワールドカフェという議論の形式が多く解釈・感想の生成に寄与したとも考えられる。読書経験が浅い学習者にとって、個人レベルの読書ではテキストから多様な気づきを得ることは容易ではない。「独書」プラス「授業での読書アクティビティ」によって気づきの機会を増やし「主体的・対話的で深い学び」に繋げることが有効ではないか。

第二に、視覚情報への反応に関し、大学生グループと教員グループで大きな差が見られたことから、若い世代への読書指導には視覚情報を足場かけとして利用することが有効である可能性が理解された。ポスターの書記内容を見ると、大学生グループがイラストに仕掛けられた無数のメタファーに敏感に反応し、その解釈を楽しんでいる様子が伺われた。こうした活動が、英文テキストを読む際のメタファーや細部への注目を促し、その結果読みが深まり英語読書が楽しくなれば、大学生の読解力・読書意欲向上への有効な手立てとなるのではないか。一方、大学生グループが絵本のイラストに着目する理由は、教員グループに比べて、大学生グループの文字情報の解析力が成熟しておらず、それを補足する手段として視覚情報に頼っているからだともとらえることもできる。したがって、例えば各登場人物のことばづかいや方言の違いなど、文字言語情報に埋め込まれた背景・意味など学習者だけでは気づきにくいポイントについては、教員の適切な指導が求められるだろう。

本稿では、ポストモダニズム絵本が持つ様々な特徴にワールドカフェ参加者がどこまで気づけたのか、具体的にどのような気づきを見せたのかなどを詳細に分析するには至らなかった。よって、リサーチクエスチョン 1 に対し十分な回答を示せなかったが、数量的な分析から議論内容の全体像をつかむことができた。今後は議論内容の精査に加え、ワークシートを用いた事前学習ありの大学生グループとなしの教員グループの比較、母語使用の前者と英語使用の後者の比較、ポストモダニズム絵本とは異なるタイプの絵本を使った場合との比較などを含めた分析を実施していきたい。

## 引用文献

- Anstey, M. (2002). "It's not all black and white": Postmodern picture books and new literacies. *Journal of Adolescent and Adult Literacy*, 45(6), 444-457.
- Brown, J., Isaacs, D., & World Café Community. (2005) *The world café: Shaping our futures through conversations that matter*. San Francisco, CA: Bernett-Koehler
- Kobayashi, M., Fukaya, M., & Kusanagi, Y. (2018). Using the World Café to increase motivation for extensive reading: A cooperative and constructive book discussion. 『成蹊大学一般研究報告』第50巻第6分冊, 1-18.
- 草薙優加, 深谷素子 (2015). 「英語の絵本を読んで World Café」『日本国際教養学会第4回全国大会プロシーディングス』1-3.
- 草薙優加, 深谷素子, 小林めぐみ (2015). 「“World Café”による教育現場での読書体験の共有」『日本英文学会第86回大会プロシーディングス』145-146.
- 西澤一, 吉岡貴芳, 伊藤和晃, 長岡美晴, 弘山貞夫, 浅井晴美 (2011). 「英語多読が効果を上げるしくみと多読授業の成否要因に関する一考察」『工業教育 (J. of JSEE)』59(4), 66-71. Retrieved May 25, 2018, from [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsee/59/4/59\\_4\\_4\\_66/\\_pdf/char/en](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsee/59/4/59_4_4_66/_pdf/char/en)
- 山本隆春 (2011). 「ポストモダン絵本論からみた文学教育の可能性 : マコーレイ『白黒』に関する議論を手がかりとして」『国語研究』52号, 72-93.
- 全国大学生生活協同組合連合会. (2018). 「第53回学生生活実態調査の概要報告」 Retrieved March 21, 2018, from <http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>